

# ほっかいどうの社会保障

2011年7月30日

北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

静かなる時源爆弾

## アスベストの被害をなくせ！

—アスベスト被害を考える市民集会開く—

7月27日夜、北海道建設アスベスト訴訟弁護団主催で、アスベスト被害の実態を広く知らせ、事件を掘り起こし救済するために、市民集会が開かれました。NPO法人北海道勤労者安全衛生センター、働く人びとのいのちと健康を守る北海道センター、北海道医療生活協同組合、北海道民医連が後援しました。

全国安全衛生センターの古谷杉郎事務局長から、「アスベスト問題の経過と現状」と題して講演が行われ、「アスベスト（石綿）を暴露すると30～40年後に中皮腫や肺がんなどが発病。中皮腫は診断からおよそ1年で亡くなり、現在根治治療法はなく死に至る病。殺人粉塵で世界中で多くの人を殺してきた」と説明し、日本での被害防止、救済対策などの問題点、課題なども指摘しました。

長年大工として働きアスベストによって54歳で亡くなった男性の娘さんから被害や家族の思いが語られ、いのちの健康センターの佐藤誠一事務局長から、4月16日行われたアスベスト被害者相談会の取り組みも報告されました。

今年4月25日に提訴した北海道建設アスベスト訴訟は、9月26日に第1回弁論が行われます。



## 介護保障確立にむけて、職場・地域でどう取り組むか？

「介護に笑顔を！北海道連絡会」が学習会



7月29日夜、「介護に笑顔を！北海道連絡会」は、改悪された介護保険のもとで、どのような取り組みが必要か、ホームヘルパー全国連絡会事務局長の森永伊紀さんを迎えて、学習会を行いました。

森永さんは、増税と社会保障費抑制のための社会保障・税一体改革や政府のねらい、その一つとしての介護保険改悪などの問題点について説明しました。

軽度者切り捨ての「介護予防・日常生活支援総合事業」はホームヘルプのボランティア化や利用者負担が増大する。高齢者住まい法の改定により高齢者住宅に

外付けの介護給付することで、特養ホーム建設費用が削減される。創設される「24時間対応の定期巡回・臨時対応・介護・看護サービス」は定額制のため訪問を減らすと事業所の利益が増えるため家族の負担が増える。介護職が医療行為解禁は政省令で拡大が可能で利用者やヘルパーの安全が脅かされる。介護職員処遇改善交付金の廃止、ヘルパー等の低賃金や不安定雇用に伴う拍車がかかる、などの可能性を指摘しました。

森永さんは、医療費抑制のために作られた介護保険の問題点にも触れ、「福祉は商品ではない」と強調、介護保障確立のために、一定の前進を作っている障害者や保育などの闘いの経験も紹介し、職場・地域で学習をすすめ、多くの人とともに、国や市町村に対して働きかけることを呼びかけました。

特に「介護予防・日常生活支援総合事業」は実施させない、もしで創設されても自治体に支給権を認めさせ本人の意志を尊重させること、地域主権改革によって施設などの基準が自治体で引き下げる可能性もあるため基準も改善させることが大切と強調しました。

### 北海道民医連が「要支援のホームヘルパー利用者事例集」作成

北海道民医連は、高齢者が安心して老後を生活できるように、「軽度者」の保険はぐしをやめさせるため利用している事例をまとめました。(27事例掲載)

